

| 石川県立看護大学の今を伝える広報誌 キャンパスネット |

CAMPUS NET

本学における災害看護への取り組み



かほく市「大海地区防災訓練避難訓練」(2025年2月9日)

石川県立看護大学の「今」を発信！SNSをご覧ください！



公式YouTubeチャンネル

大学紹介や講義の様子、学生生活を通して、石川県立看護大学の学びの魅力を動画でわかりやすく発信しています。



ここから
観れるよ



公式Instagram

大学の日常やイベント、学生の姿を通して、充実したキャンパスライフや学びの魅力をお届けしています。



ここから
チェック



教訓を力に。
震災から生まれた
看護教育。

学長

真田 弘美

SANADA Hiromi

▶ 災害実践看護学講座の新設に臨んで

災害に強い 看護職を育てる学びが、 現場を変える。

昨年の1月1日の令和6年能登半島地震を経験し、「災害に強い大学になる」と決心したことが、この災害実践看護学の創設に繋がったと思っています。1月1日には、津波警報が出て多くの近隣の方々が高台にある校舎を目掛けて集まっていたりしました。しかし当大学は避難所ではなかったために、驚いたことは、高齢者の要支援者が多く、エレベーターが動かない状況では、ガラスホールの長い階段を上がることができませんでした。また、その一か月後には避難できずに孤立した能登の施設に褥瘡の患者が多発し、三か月にわたり、毎日創傷専門の看護師を派遣しました。このような経験からより実践的に、より科学的な災害看護学教育の必要性を強く感じました。被災しながらも学業、ボランティア活動を実践する学生を支援するにつれ、激震地に最も近い位置にある大学として、災害支援に対しての知識と技術を持つ看護職を学部時代から育成する責務を実感しました。

当大学での教育は、ファーストエイド、避難所支援、その後の復興をめざし、学部での実践教育、大学院での災害時の療養者支援に必要なシステムや機器の開発、そしてすでに看護職として働く方々のリカレント教育を一貫したカリキュラムで行いたいと思っています。末尾になりますが、ご支援いただきました石川県はもとより、かほく市、その他関係者に感謝の意を表します。

▶ 災害看護教育の具体的な取り組み

防災を学び、実践へつなぐ 看護教育のかたちを、 次代のスタンダードに。

災害に強い看護師を育成していくという学長の決意を伺い、本学の進むべき道の大きな転換点を迎えたかと捉えました。まずは暫定的に「災害に強い看護職者育成に向けたプログラム」を構想し、1年時から4年間、大学院、社会人まで学べるプログラムを策定いたしました。学内の意思統一を図り、災害時の専門的な教育を担えるよう希望する教職員には防災士の受験を後押しいたしました。3月末現在では教員40名、事務局スタッフ4名が防災士資格を取得いたしました。また、かほく市の手厚いご支援を得て、学生も53名が防災士の資格を取得しました。

石川県の創造的復興事業の1つに当該事業が位置づけられ、寄附講座「災害実践看護学」の開設のゴーサインが出されました。その後も、専任教員の確保、実験室の確保、機器機材の準備、カリキュラムへの反映など、課題が山積しておりました。学内における担当教員・事務局スタッフを定めて、ひとつひとつ検討・議論して進めてまいりました。今後は、このプログラムを発展させて新カリキュラムを構築し、被災地の支援や復興を担える人材を多数輩出していきたいと思い、新たにしているところです。



看護の未来を拓く、
災害教育という挑戦を
地域とともに。

学部長

川島 和代

KAWASHIMA Kazuyo

災害に強い看護職育成を目指した体系的教育の提供

木田 亮平 教授 | 寄附講座災害実践看護学

令和6年能登半島地震では、災害医療や被災地支援、復興支援など災害のあらゆるフェーズで看護職が必要とされました。この経験から石川県は、「県内の看護職育成の中核機関である本学において、平時から復興期まで市民の健康維持に資する医療チームとして災害に強い看護職を育成する」ことを目指し、本学に寄附講座「災害実践看護学」を開設しました。

本学はこれまで「災害看護論(1単位)」をはじめ様々な授業で災害看護を扱ってきましたが、今後は他の領域(成人看護や小児看護など)と同様、1年次から4年次にかけて体系的に災害看護を学べる科目を新設し、災害に強い看護職を養成する予定です。また学部教育だけでなく、大学院教育やリカレント教育(学び直し)プログラムも行い、災害看護を科学的に探究する力や新たなエビデンスの創出、現役看護職の学び直しの機会の提供など、キャリアごとに様々な視点で災害看護を学ぶ機会を提供していきます。



災害実践看護学講座の特色等について

本講座の特色

- ① 学部1年次から大学院、リカレント(学び直し)に至るまで、キャリアステージに応じた教育プログラムを実践
- ② 奥能登地域を中心とした実習やボランティア活動等を実施
- ③ 防災士の資格取得促進等、災害時に役立つ幅広い知識・技術の習得を支援

実施体制

看護政策・看護管理学を専門とする教授1名と、災害看護の実践を専門とする教員2名の計3名

育成する人物像

発災時の初動対応(救急対応)だけでなく、平時から復旧・復興時まで幅広く活躍できる看護師(学部・リカレント)科学的に災害看護の発展に貢献できる看護師及び看護学研究者(大学院)

か ほ く 市 と の 防 災 活 動 の 連 携

美濃 由紀子 教授 | 精神看護学

2025年2月9日(日)7～9時に大海小学校体育館において、かほく市「大海地区防災訓練避難訓練」が行われました。本学とかほく市とは包括的連携関係にあり、本学で昨年度新たに開講した「ヒューマンヘルスケア防災士取得コース」において、防災士研修の受講等のサポートを受けています。その甲斐もあって、昨年度は53名の学生防災士が誕生いたしました。今回はかほく市からボランティアの依頼があり、学生6名と教員2名(美濃、北村教授)の8名で参加しました。

訓練は、住民避難訓練、市と地区の情報通信訓練、拠点避難所開設訓練などを通じて、地域防災力の強化を目的に実施されました。本学は、「エコノミークラス症候群予防セミナー」のブースを担当し、血栓の予防のために市民が実施できる簡単な運動や気をつける点を紹介しました。訓練には、約50名の地元住民や地区リーダーが参加し、真剣に学生の説明に耳を傾けてくださっていました。学生たちは、最初は緊張した様子でしたが、後半は住民の方との会話も弾み、お互いに防災意識を高めあえる良い交流の機会となりました。





令和6年能登半島地震被災地における フェーズに応じた避難者等への健康支援

米澤 洋美 教授 | 地域看護学

地震の甚大な被害に心を痛め、私たちは能登半島に最も近い看護大学として、学生と共に健康支援活動を始めました。3月には珠洲市の避難所や仮設住宅で、他のボランティア団体と協力して健康観察や足浴、手のマッサージを行いました。これらの活動は、コンサルテーションを含めて合計12回にわたります。学生にとっては、「今」の被災地や被災者の声を直接お聴きする貴重な機会となりました。9月には奥能登豪雨の影響で催しが中止となり、避難者の方々の無事を祈りながら、自然災害の恐ろしさを改めて感じました。翌年3月には能登町でクラフトやe-スポーツ、リラクソの体験会を開催しました。学生と参加の皆様と一緒に体操や会話を楽しみ、心温まるひとときを過ごしました。



災害ボランティア・サークル ふたばの地域活動

高 幸紀心 さん | 元代表／4年生

私たちは、災害に強い街づくり、地域の防災力向上に貢献すること、自身の防災知識をつけることを目的として活動しています。令和6年能登半島地震からの復興に対しても、少しでも石川県の皆様を支援したいと考え、災害発生後のフェーズや地域の要望に応じて様々な活動を行ってきました。2024年11月からは能登町まつなみ団地で健康サロン活動を開始し、血圧測定や健康体操、クラフトやお茶会を通じた傾聴活動を行っています。今後も地域のコミュニティづくりや災害関連死予防のため活動を続けていきます。



防災士取得の道のりとその後の活動

市川 鈴華 さん | 2年生

令和6年の能登半島地震を経験し、能登のために貢献したいと考え、防災士資格の取得を決意しました。大学の防災士取得コースで地震や津波のメカニズム、避難所生活の実態を学び、防災グッズの備蓄や正しい情報の取得の重要性を実感しました。資格取得後は、12月24日と27日に輪島市の門前町でボランティア活動を行いました。クリスマスだったため、仮設住宅の子供たちにお菓子を配ったり、雪で足元が滑らないよう階段に菰を引く作業をしました。今後も能登でのボランティア活動に積極的に参加し、防災の備えや災害発生時の対応について地域の人々に伝えていきたいと考えています。



防災士としてできることを 能登の被災地で活動して思うこと

本田 千紘 さん | 4年生

私の従妹は令和6年能登半島地震で被災し、余震が続くなか不安な避難生活を送っていました。私は3日間従妹と連絡が取れず、深く心配すると同時に何もできない自分の無力さを感じました。この経験から防災の知識を得て今後の支援に役立てたいと強く思い防災士の資格を取得しました。資格取得後は様々な活動に取り組みました。例えば珠洲市立蛸島小学校での炊き出し支援です。地震発生から10カ月経過していましたが、小学校周辺は倒壊した住宅や傾いた電柱が多く、電気やガスが利用できない状況でした。そのため持参したガスコンロで温かい食事を提供しました。寒い日であり、大変喜んでいただけたことが印象に残っています。今後も被災者の思いに寄り添って信頼関係を築き、生活再建に向けた支援を継続したいと考えています。

RESEARCH INTRODUCTION



教授

亀田 幸枝

KAMEDA Yukie

専門分野: 助産学、母性看護学

石川県加賀市出身。金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了(保健学博士)。金沢大学医学部附属病院勤務、金沢大学医薬保健研究域准教授を経て2017年9月より現職に就任。

MY RESEARCH TERM

未来を拓くプレコンセプションケア 健康な人生設計のための知識と選択

プレコンセプションケア(Preconception care; PCC)は、妊娠前の女性やカップルに適切な知識・情報を提供し、将来の妊娠に向けた健康管理を促す取り組みです。PCCにより、健康に関する知識が向上し、妊娠前の健康状態が改善されます。その結果、より安全で安心な妊娠・出産が可能となり、結婚、妊娠、出産、子育て、仕事を含めた将来のライフプランを描くことができるようになります。PCCの対象領域は、栄養状態、不妊、予防接種、性感染症、若年妊娠や望まない妊娠、喫煙など多岐にわたります。しかし、これらの情報を得る機会は限られているのが現状です。そこで現在、若者の健康意識向上を目指し、学生と教員が協力して啓発活動や研究に取り組んでいます。特に、男女のHPV(ヒトパピローマウイルス)関連疾患(子宮頸がん、中咽頭がんなど)の予防に焦点を当て、若者のHPV感染予防行動を促進するために親向けの教育コンテンツ作成と啓発プログラムの開発に力を入れています。この取り組みは、将来的に若者の健康増進や効果的なPCC教育モデルの構築を目指しています。結婚や妊娠に関する多様な価値観を尊重しつつ、正しい知識を持つことで、個人の選択肢が広がると考えています。



わたしのイチオシ

小学生の頃から相撲ファンです。以前は輪島と千代の富士の大ファンでしたが、今は「大の里」が私の“推し”です! 彼の力強い相撲とキュートな表情に魅了され、能登の復興を願って応援しています。

MY RESEARCH TERM

ヒトの認知機能についての実験心理学的研究

眠りから目覚めた瞬間、五感を通して様々な体験が始まります。窓の外からは鳥の鳴き声が聞こえたり、キッチンからは焼いたトーストの匂いが漂ってきたり。ひとたび、目を開ければ光が瞳に差し込み、光を通した外の世界が広がります。

人間は感覚器官を通して外界の情報を受け取っていますが、その全てを処理することはできていません。意外に思いますが、そもそも外界の情報を人間にとって意味があるように組み上げた結果が、意識にのぼっている世界です。処理しきれていない情報は意識できていません。そのため、自分がわかっていないことが存在するという事実を意識の中の世界から理解するのは、原理的に極めて困難です。以上は論理的に導かれる人間の限界点についてのお話でした。私はその限界点の解明について実験心理学という科学的手法を用いて取り組んでいます。ヒトが無意識に行っている情報の選択性の特徴について研究をしているのですが、最近は「安静時は真に安静か?」という問題に取り組んでいます。意識の上では「何もせず安静にしている」ことが実行できているように思えるのですが、意識の下、生体反応においてはむしろ活発に(好き勝手に!?)活動していることが実験で確かめられており、私としては興味が尽きない話題です。



わたしのイチオシ

趣味が先だったか研究が先だったか。いろんな場所の温度と湿度を計測しています。スマホから計測結果を常時知ることができ、とくに冬の乾燥時には役に立っています。



准教授

松田 幸久

MATSUDA Yukihisa

専門分野: 心理学

東北大学大学院情報科学研究科応用情報専攻修了。博士(情報科学)。同大学院附属言語脳認知総合科学センター、金沢医科大学総合医学研究所、福山大学大学院講師、福山市立大学大学院准教授を経て、2021年度から現職に就任。

卒業式・学位授与式



学部生83名が卒業、大学院生7名が修了しました。

令和6年度の卒業式・学位授与式を3月15日(土)に挙行了しました。学部生83名が卒業、大学院生7名(前期課程)が修了しました。真田弘美学長は、「相手を思いやることを忘れずに、大学生活を通して身につけた力で、どのような困難に直面しても乗り越えてほしい。」と激励し、「人は宝なり。」をはなむけの言葉として贈りました。卒業生を代表して新木伶奈さん、修了生を代表して加藤克典さんが学生生活を支えてくれた友人や家族、教職員、実習施設などに感謝を述べました。保護者・ご家族も講堂にて卒業生・修了生の晴れ姿を見届けました。

災害と向き合いながら 学んだ看護の心



新木 伶奈 さん | 学部卒業生

大学生活は家族や友人、先生方など多くの方々に支えられて、人として、そして看護学生として成長することができた4年間でした。大学1・2年次はコロナ禍でオンライン授業となりましたが、先生方が親身になって支えてくださったおかげで、看護の学びを深めることが出来ました。大学3年次には地震、4年次には豪雨と様々な災害に見舞われながらも、災害や実習を乗り越えることができたことは、今では大きな自信となっています。また大学4年間の大学生活を通して、「患者様やご家族に寄り添い、その方らしさを大切にした看護を提供する」という自分なりの看護観を持つこともできました。これから石川県立看護大学で学んだことを誇りに頑張っていきたいと思います。

研究で深めた知識を 臨床での力に



岩田 一花 さん | 大学院修了生

元々研究への興味があったことに加え、学部生時代、発達障害という分野に強く惹かれました。興味ある分野を深く知った上で臨床へ出たいと思い、本学卒業後、大学院へと進学しました。実際に看護師として働かれている大学院生の方達と一緒に学び、目的に何度も立ち返りながら一つの研究をやり遂げた大学院生活は、学部生時代では経験することのできなかった、財産といえる学びを得ることができました。卒業後は大学院で得た自身の強みを活かし、より良い看護を提供すると共に、長く発達障害の方の看護という分野に携わっていきたいと考えています。

学長表彰を受けた皆さん



在学時代に顕著な活躍をした以下の皆さんに「学長表彰」が贈られました。

- | | |
|-------------|-------------|
| 01 中島 いまりさん | 02 寺田 純咲さん |
| 03 石川 圭菜さん | 04 浅田 夏菜さん |
| 05 加藤 克典さん | 06 久保川 力有さん |
| 07 西森 筒哉さん | 08 新木 伶奈さん |



入学式



令和7年度入学式

学部生87名、大学院生21名が入学しました。

4月3日(木)、令和7年度入学式が挙行され、学部生87名、大学院生21名(前期課程15名、後期課程6名)が入学を許可されました。桜のつぼみがふくらむ春のキャンパスでの入学式に、新入生・保護者・教職員が参列しました。真田弘美学長は、式辞において、未来の看護を創ることへの希望を語り、DX・国際・防災の観点での教育・研究において、学生らのコンピテンシー向上や科学的な探究への期待を述べました。馳浩石川県知事は、看護の役割の重要性を述べるとともに、将来、幅広い看護の道での活躍を目指して多角的に学びを深めるよう激励されました。ご来賓の油野和一郎かほく市長は、災害支援、地域の健康増進に対する本学学生の貢献と実績への御礼と今後の期待を述べられました。

new comer

新任教員紹介

＼はじめまして🌱今年赴任しました6名の先生方です！／

[①出身地 ②前任 ③現在の仕事内容 ④趣味]



浅谷 純菜 | 基礎看護学講座 助手

- ① 石川県津幡町
- ② 石川県立看護大学 臨時助手
- ③ 看護の基礎となる知識や技術を学ぶ授業のサポートを行っています。温かい雰囲気を大切にしながら、患者さんにとっての良い看護を学生さんと一緒に考えています。
- ④ 音楽鑑賞、旅行



星野 真実 | 成人看護学 助教

- ① 静岡県菊川市
- ② 菊川市立総合病院
- ③ 教員としては成人看護学について教育を行っています。研究では看護学の視点と工学の視点を合わせた痛痛(じょくそう)予防の研究など、複数の分野を横断した学際的な研究を行っています。
- ④ 茶道、猫と遊ぶこと



中敷 えりか | 地域看護学 助手

- ① 石川県野々市市
- ② 千木病院
- ③ 病気を抱えていても、暮らしに支障のない地域で住民の方が過ごしていけるように整えていくための看護について教育・研究を行っています。
- ④ 読書や紅茶を楽しむこと



窪田 直美 | 石川県寄附講座 災害実践看護学 講師

- ① 福井県福井市
- ② 地域医療振興協会 公立丹南病院 看護部長(福井県鯖江市)
- ③ 被災地での活動を行いながら、災害に強い看護職の育成を目指し、教育活動を進めています。研究では、災害時の生活環境改善(トイレなど)を目指します。
- ④ アロマ、さまざまな観戦、映画鑑賞、コーヒーを飲むこと



登谷 美知子 | 石川県寄附講座 災害実践看護学 講師

- ① 石川県津波市大谷町
- ② 石川県立中央病院 救急集中治療室(ECU)
- ③ 災害に強い看護職の健康増進、災害に備えた支援システムや避難後の健康管理の研究、災害看護専門看護士として避難した住民の健康管理、見守りを支援しています。
- ④ 映画鑑賞、読書、旅行(ドライブ)



松井 優子 | 看護キャリア支援センター 特任教授

- ① 石川県金沢市
- ② 公立小松大学
- ③ 看護キャリア支援センターで、看護職や看護教員のための研修会を企画・運営しています。
- ④ 絵画鑑賞、フィギュアスケート観戦

附属施設INFORMATION

附属図書館

夢ナビ講義動画のご紹介

小林 宏光 教授 | 附属図書館長

本学は令和6年度から高校生向け講義動画配信サイトである「夢ナビ」に参加を始めました。現在(令和7年3月時点)4名の本学教員の講義動画が公開されており、2名の先生の講義が公開準備中です。これらの講義は基本的には大学受験する高校生向けの内容なのですが、本学在学がみても興味を持てる内容だと思います。大学HPから閲覧可能ですので、一度ご覧ください。



地域ケア総合センター

地域課題解決力と国際対応力を備えた人材が本学から誕生

塚田 久恵 教授 | センター長

令和6年度、本学の学生が「学徒いしかわグローバルチャレンジプログラム」を初めて修了し、大きな成果を達成しました。このプログラムは、令和3年度の制度改正後、地域理解と課題解決力を養う「ローカルチャレンジ」と、国際的視点を培う「グローバルチャレンジ」の2課程で構成されています。本学の修了者は真田学長より修了証を授与され、さらに県内初となる「グローバル人材」として大学コンソーシアム石川から認定を受け、地域と世界をつなぐリーダーの誕生として期待されています。



左:修了者の寺田鞠咲さん(4年次生) 右:真田学長

看護キャリア支援センター

皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程一期生修了式

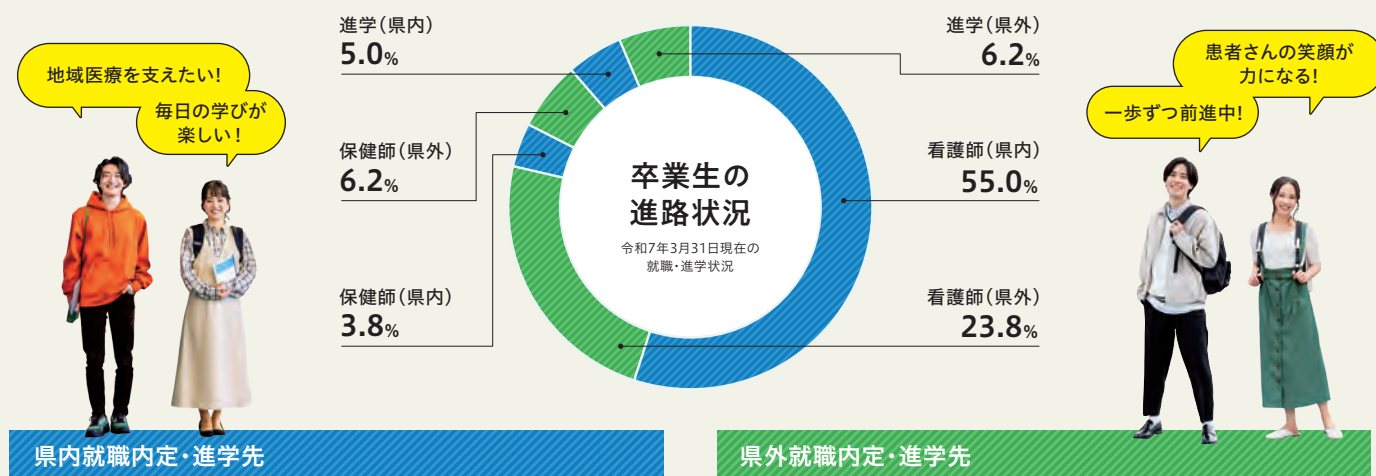
紺家 千津子 教授 | センター長

令和7年3月27日、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程(B課程)一期生の修了式が執り行われ、30名が修了しました。30名はこの1年間で、褥瘡(じょくそう)管理、ストーマケア、失禁ケアなどの専門知識と技術を習得し、患者様やそのご家族が安楽な生活を送るための支援ができる認定看護師となることを目指しました。修了生たちは、今後、各医療現場で専門的なケアを提供し、病院のみならず地域医療のキーパーソンとしての役割が期待されています。式典では、ご来賓の方々から激励の言葉が贈られ、履修生たちは新たな一歩を踏み出しました。



国家試験の合格状況 令和6年度看護師・保健師国家試験合格状況(第22期生の状況)

区分	卒業生	受験者数	合格者数	合格率	
				本学	全国(新卒のみ)
看護師	83名	83名	82名	98.8%	95.9%
保健師	83名	82名	77名	93.9%	97.7%



看護師

石川県立中央病院(25名)、金沢大学附属病院(4名)、JCHO金沢病院(4名)、国立病院機構金沢医療センター(2名)、白山石川医療企業団(2名)、やわたメディカルセンター(2名)、金沢医科大学病院(1名)、公立穴水総合病院(1名)、公立宇出津総合病院(1名)、町立宝達志水病院(1名)、珠洲市総合病院(1名)

保健師

石川県(1名)、金沢市(2名)

進学

石川県立看護大学大学院(助産)(2名)、石川県立看護大学大学院(1名)、金沢大学看護教諭特別科(1名)

看護師

富山県立中央病院(1名)、福井県済生会病院(1名)、福井赤十字病院(1名)、自治医科大学附属病院(2名)、一宮西病院(4名)、名古屋市立大学附属西部医療センター(1名)、神戸大学医学部附属病院(1名)、滋賀県淡海医療センター(1名)、三宿病院(1名)、三井記念病院(1名)、東京臨海病院(1名)、横浜医療センター(1名)、済生会横浜市東部病院(1名)、湘南鎌倉総合病院(1名)、川崎幸病院(1名)

保健師

東京都(1名)、静岡市(1名)、松本市(1名)、佐久市(1名)、南箕輪村(1名)

進学

新潟大学看護教諭特別科(1名)、富山県立大学助産学専攻(1名)、敦賀市立看護大学助産学専攻(1名)、佐久大学助産学専攻(2名)

令和7年度 キャンパススケジュール

前期	夏のオープンキャンパス	7月19日(土)
	補講・試験	7月30日(水)～8月8日(金)
	夏季休業	8月12日(火)～9月30日(火)
後期	授業開始	10月1日(水)
	秋のオープンキャンパス	10月11日(土)

後期	大学祭(看大祭)	10月18日(土)
	冬季休業	12月20日(土)～1月5日(月)
	補講・試験	2月13日(金)～20日(金)
	春季休業	2月24日(火)～
	卒業式・学位授与式	3月14日(土)

石川県立看護大学グローバルはまなす基金

開学から20年が過ぎた今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いことが聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師・助産師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域・社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローバルはまなす基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附をお待ちしております。

〔お申込み・お問合せ先〕 石川県立看護大学総務課 076-281-8300

詳しくはこちらから

